

藤亦作滕故其義同矣

〔東雅草^{十五}〕藤フヂ略○中 フヂとはフシといふ語の轉せしなり、凡そ藤生の節あるをいふなるべし、鞭をムチといふも、古には藤を鞭となせしと見えたり、藤鞭といふ即此也、藤といひ鞭といふ、其詞を轉じて呼びしと見えたり、

〔塵袋^三〕一藤ハ木歟草歟

草ヲ篇ニシタガヘタリ、カツラノ類ナレバ草ナルベシ、昔シ尾張國春部郡國造川瀬連ト云ケル物、田ヲ作リタリケルニ、一夜ノ間ニ藤オヒタリケリ、アヤシミヲソレテ、切棄ルコトモナカリケルニ、其藤大ニナリニケリ、其ノ故ニ此ノ田ヲバハキタト云ト云ヘルトカヤ、此事ヲ菅清公卿ノ尾州記ニ云ヘルニハ、其藤漸大ニシテ如樹、遂號藤木俗云、田ト云ヘリ、藤ヲバハキト云フニコソ、如樹ト云ヘバ、ウチタヘテ、モトヨリ木ト云ベキニアラザルベキ、仁和寺ニモフチノ木ト云フ所アリ、是モ同心歟、

〔宜禁本草^{藥乾}〕紫藤 甘微温、作煎如糖下水良、四月紫花可愛、花按碎拭酒醋白腐壞、子角中仁熬

香著、酒中令不敗、酒敗者用之亦正也、京人種飾庭池、

〔和漢三才圖會^{九十六}〕紫藤 招豆藤 和名布知、止用藤一字訓爲名、○中略

按紫藤花朵二三尺、纏樹垂架最艷美、攝州野田藤得其名、蓋冬月酒糟汁及米泔汁、灌根則茂盛、

又有白藤 蔓葉皆無異、唯花白耳、凡插藤花於水最易萎、灌酒於其本、莖則歷時不凋、

〔大和本草^{蔓八}〕紫藤 葉ワカキ時食フベシ、花ハ春ノ末ヨリ四月ニサキカ、ル花ノ長三尺ニミツルアリ、其實ヲ炒テ酒ニ入レバ酒敗レズ、敗酒ニ入レバ味正クナル由、本草ニイヘリ、又藤ノ枯ントスルニ酒ヲソ、ゲバ活ス、花瓶ニ紫藤ヲサスニ、酒ヲ加レバ久シク萎マズ、酒毒ヲ解スルニ藤ノ花生ニテモ、カゲ干ニシテモ服ス、酒醋ノ衣服器物ニ付テカビタルニ、フヂノ花ヲ用テスレ